

<小学校生活部会>

I 研究主題

「生活科で身に付く学力と評価」

II 研究の概要

日常の指導において、指導と評価の一体化を図りながら、個に応じた指導を展開することにより、資質や能力をより高める必要がある。そこで本部会では、昨年度までの生活部会の研究を踏まえ、次の点を中心に研究を進めていくことにした。

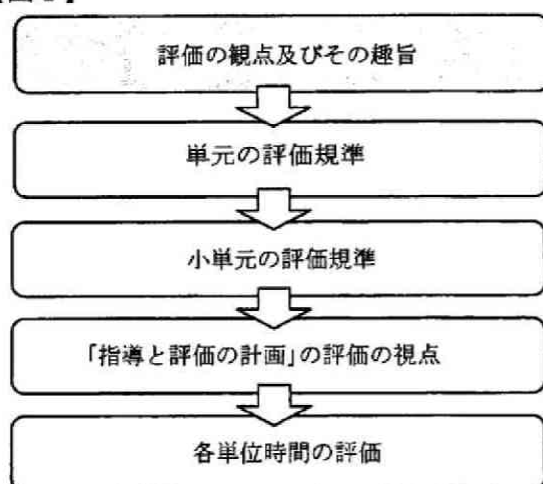
- ① 単元の目標から各単位時間の評価に至るまで一貫性をもたせた指導と評価
- ② 個に応じた指導における教師の役割の分析
- ③ 学校としての生活科全体計画の作成と活用

III 研究の内容

1 単元の目標から各単位時間の評価に至るまで一貫性をもたせる

生活科で身に付ける基礎・基本は、学習指導要領の目標及び内容に示され、生活科の目指す学力は児童指導要録に観点別学習状況として示された3観点到に整理される。

【図1】



実際に単元の「指導と評価の計画」を作成する際には、学習指導要領に示された目標や内容、平成14年2月に国が例示した評価の観点及びその趣旨等を基に単元の目標を設定し、児童の実態を考慮した具体的な学習活動を想定する。その際、[単元の評価規準]から[小単元の評価規準]、「指導と評価の計画」の評価の視点を経て[各単位時間の評価]に至るまで、どのような力を身に付けさせるかを明確にすることが重要である。つまり、単元の評価規準は各単位時間の評価につながるものであり、一貫性をもたせることが必要である(図1)。

また、評価規準を適切に機能させるため、評価の視点について十分に吟味する。

2 個に応じた指導における教師の役割を明確にする

生活科において、教師は児童一人一人の学習状況を把握し、その場ですぐに指導に生かす手立てや、次時の学習活動における手立てを考える必要がある。また、既習単元の評価や単元前の調査から児童の実態を把握し、それに応じた学習活動を想定することも重要である。

さらに、単元全体を通した「指導と評価の計画」だけでなく、単位時間ごとに評価の場面や方法を計画し、教師の役割を明確にすることにより、個に応じた指導を充実することが求められている。このように、指導と評価を繰り返し、児童の学習状況を単元の目標に近づけていくための教師の役割を検討する。

3 学校としての生活科全体計画を作成し活用する

年度によって、また指導者によって「指導と評価の計画」が大きく変わることは望ましくない。地域の特性や学校の特色、児童の実態などを加味して重点を設定し、学校ごとに単元の配列及び内容やねらいを明確にした「生活科全体計画」を作成することが重要である。さらに、それに基づいた年間指導計画を活用することは、評価規準や評価の方法、指導の手立てなどの蓄積を可能にし、単元の「指導と評価の計画」の改善に役立てることができることから、「生活科全体計画」の様式や活用の在り方等について検討する。

IV 指導事例

指導事例1 《単元の指導事例（第2学年）》

ここでは、指導と評価の計画及び観察対象とした児童の評価と指導の事例を見開きの構成で示した。

1 単元名 「生きもの と も だ ち」（全14時間） 内容（7）「飼育・栽培」

2 単元の目標

身近な場所で生き物を探し、生き物に関心をもつことができる。また、世話をする活動を通して、すみかや餌を工夫しながら、生き物の様子や、生き物に合った世話の仕方があることに気付くとともに、生き物に親しみ、生命を大切にしようとする気持ちをもつことができる。

3 単元について

本校は、近隣に公園や緑地・小河川などがあり、自然に恵まれた地域にある。児童は第1学年の公園探検や第2学年1学期の町探検で地域の自然にも触れた活動を経験している。しかし、そこに住む生き物については、見かけたり探したりした経験はあるものの、自ら捕まえて世話をしたことのある児童は少ない。

そこで児童が地域の恵まれた自然環境に愛着をもち、より深く生き物とかかわり親しむことを願いこの単元を設定した。

この単元では、身近な生き物の世話をし、触れ合う活動を通して、生き物を大切にしていける気持ちが育つようにしたいと考えた。



5 指導と評価の計画（14時間）教師の支援（○●学習の流れに関する支援・▽▼評価に関する支援）

時間	主な学習活動	教師の支援（○▽全体●▼個）	評価の視点（評価の方法）
9月 ①生き物をさがしに行こう（5）	□公園での生き物探しを計画する。 ・1学期の町探検や夏休みの体験を基に話し合う。 (1)	▽町探検のときのカードや生活科マップを掲示する。 ▽夏休みの作品・「あのね帳」で関連する作品を紹介する。 ○教室に、関連図書を置く。	関・カードにどんな生き物を捕まえたか、どんな準備をするかをかいている。 (行動観察・カード)
	□公園に生き物探検に行く。 (1)	▼生き物にあまり興味をもてない児童には声を掛けたり一緒に探したりする。	関・公園の草地や池で生き物を探している。(行動観察) ・見つけた生き物について友達や先生に報告している。 (行動観察・発言)
	□探しに行く場所を決め採集に必要なものを準備する。 ・飼育の準備もする。 (1)	▽どこにどんな生き物がいるのかを事前に調査し、必要に応じて紹介する。	思・採集や飼育に必要な準備をしたり、カードに記入したりしている。 (行動観察・カード)

4 - (1)単元の評価規準


単元 の 評 価 規 準	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
	単元名 : 生きもの と ともだち		
	身近な生き物に関心をもち、親しみをもって生き物の世話をしようとしている。	生き物が住む場所のことを考えて、生き物を探したり、世話をしたりしながら、生き物の様子や自分とのかかわりを表現することができる。	生き物に合った世話の仕方があることに気付き、生き物にも生命があることに気付いている。


4 - (2)小単元の評価規準 (小単元の目標)

小単元 の 評 価 規 準	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分への気付き
	小単元①: 生きものをさがしに行こう (身近な場所で生き物を探し、生き物に関心をもち、飼う準備をすることができる。)		
	身近な生き物に関心をもち、探したり、飼おうとしたりしている。	生き物の住んでいる場所に応じて、捕まえ方や飼い方を考えることができる。	生き物によって住んでいる場所が違うことに気付いている。
	小単元②: 生きもの と ともだち になろう (生き物の世話をする活動を通して、生き物に親しみ、生命を大切にしようとするすることができる。)		
	親しみをもって生き物の世話をしようとしている。	生き物に合った世話をしながら、生き物の様子や、自分とのかかわりを表現することができる。	それぞれの生き物に合ったすみかや世話の仕方があることや、生き物にも自分と同じように生命があることに気付いている。

児童の変容 (A児を例とした見取りと支援)

学級の児童の様子	A児の活動の様子	A児への評価 (⇒) 支援 (⇐)
<ul style="list-style-type: none"> 夏休みにセミの抜けがらを採ったこと、トンボを見たことを発表した。 虫などの飼育を経験しているのは3分の1ほどであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物として公園で見つけたチョウのことを発表した。 飼ったことがある生き物として保育園で小鳥を飼っていたことを思い出して紹介した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物に興味があるが虫などを自分から捕まえたり世話をしたりしたことはなかった。 発言を褒めるとともに公園や学校の花壇に目を向けさせた。
<ul style="list-style-type: none"> チョウなどを見つけた児童が多かった。 バッタやカタツムリを捕まえ、飼いたいという思いをもった児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達とチョウを見つけて追いかけていた。 見つけた生き物のことや、活動したことを教師に自発的に話した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物への関心が高まっている。 共感して話を聞き、他の児童にも教えてあげるよう促した。
<ul style="list-style-type: none"> 図書館で図鑑を借りて生き物の捕まえ方や飼い方を調べた児童がいた一方で、虫かごでそのまま飼うつもり児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> モンシロチョウを飼いたいと言い、図鑑でチョウの飼い方を調べていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園で見つけたチョウへの関心が強く、チョウを飼いたいという思いをもっている。 一緒に図鑑を見ながらチョウは成虫として長く生きられないことを話した。

時間	主な学習活動	教師の支援(○▽全体●▼個)	評価の視点(評価の方法)
① 生き物をさがしに行こう (5)	<p>□公園に行き、生き物を捕まえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 池、草地、花壇の周りなどを探す。 用意しておいたすみかに入れる。 <p>(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▼生き物を見つけた児童にはうれしさに共感し生き物の住んでいた場所をよく見ておくように声を掛けたり友達に紹介したりする。 ●生き物を見つけてもうまく捕まえられない児童、苦手意識をもつ児童には一緒に探したり捕まえたりする。 	<p>気・自分が飼おうと決めた生き物が住んでいる場所を予想しながら探している。(行動観察・つぶやき)</p> <ul style="list-style-type: none"> 捕まえた生き物の住んでいる場所について情報交換している。(行動観察) うまく捕まえられない友達にコツを教えたり手伝ったりしている。(行動観察)
② 生き物とともだちになろう (9)	<p>□採集した生き物の世話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> すみかを作る、餌をやるなどして世話をする。 自分の飼う生き物の特徴を捉えて名前を付ける。 世話をして気付いたことをミニカードにかく。 世話をしている生き物について、人に聞いたり本で調べたりする。 <p>(1) + 常時活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に世話の時間を確保する。 ▽児童のつぶやきを拾い褒めたり共感したり友達に紹介したりする。 ○朝の会の発表を促す。 ▼気付きを褒め、友達に教えてあげるよう助言する。 ●思うように世話できない児童には声を掛けたり一緒に活動したりする。 ▽児童が読みやすい関連書籍を教室に置く。 	<p>関・すみかを掃除したり、餌をやったりしている。(行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連する本を探して読んでいる。(行動観察・カード) 生き物の特徴を捉えて名前を付けている。(行動観察・つぶやき・カード)
本時	<p>□自分の生き物を友達に紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前の由来や世話の仕方、気付いたことについて自慢し合う。 <p>(1)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵や言葉だけでなく動作化したり模型化したりして紹介する方法もあることを示す。 ●楽しく活動している気持ちに共感する。 ▼生き物の特徴を生かした名前を褒める。 ▼思うように表現できない児童には、名前の由来や捕まえた時の様子などを尋ねて引き出す。 	<p>思・自分の生き物を友達に紹介している。(行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前の由来を教えている。(行動観察) 生き物の様子を動作化したり、友達に見せたり、触らせたりして説明している。(行動観察) 触ったり手にのせたりしながら説明している。(行動観察)

学級の児童の様子	A児の活動の様子	A児への評価 (⇒) 支援 (⇐)
<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニを捕まえるのが上手な児童が、他の児童にコツを教えたり、手伝ったりしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チョウを捕まえたが、長くは生きられないことを思い出して逃がした。 ・バッタかコオロギを探ろうとしたが捕まえられなかった。 ・教師が捕まえたコオロギを友達と一緒に飼うことにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 生き物の立場になって考えている。 ⇒ 生き物がどこにいるのかが分からず、飼う意欲が低下している。 ⇐ 休み時間に学校の花壇で一緒に探して捕まえた。
<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間も校地内で餌を集めたり、新しい虫を探したりしている児童がいた。 ・自分から生き物に名前を付け始めた児童がいた。 ・となりの学級の生き物を見たり、見せに行ったりする児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コオロギの種類を図鑑で調べ、飼い方を確かめていた。 ・餌やり、掃除をすすんでやった。 ・グループの友達と協力して活動していた。 ・自分の飼っているコオロギの様子をよく見ていた。 ・ミニカードに気付いたことを書いて発表した。 <p style="text-align: center;">〈カードの記述〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>今日コオロギがりんごばかり食べているからりんごが好きなかもしれない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今日はコオロギが10cmくらいとんだよ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ コオロギを飼いたい気持ちが高まっている。 ⇐ 図鑑の使い方を助言した ⇒ 生き物の世話に意欲的に取り組んでいる。 ⇐ 活動を見守った。 ⇒ 飼う活動を通して気付いたことや思ったことがある。 ⇐ ミニカードに書いて友達にも教えてあげようと声を掛けた。 
<p>A児の学習活動の状況 → A児への支援</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>生き物への愛着をもち、進んで世話をしているが、直接触るには至っていない。多くの気付きがあり表現していたが、自分の気付きをよさとして自覚していない。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>これまでの活動の様子や気付きを友達に伝えることでそのことを自覚できるようになり、生き物への愛着が更に増すだろうと考えた。そこで生き物の様子を尋ねて引き出す支援を考えた。</p> </div> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめメモしておいた内容を紹介した児童もいれば、自分の生き物に触らせて扱い方を説明する児童もいた。 ・他の児童の生き物に興味をもつ児童もいた。 ・説明をしながら、新たな気付きをしている児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを見ながら名前の由来や好きな食べ物を紹介した。 ・大きさや羽の特徴について更に詳しく説明した。 ・他の児童が生き物に触っていることに興味をもち、自分も触ってみた。 <p>【1学期は虫が嫌いだったけど今日触ってみたら好きになった。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ すすんで発表している。 ⇒ メモにとらわれ自分の実感を伝えきれない。また、直接触れたり友達に見せたりしていない。 ⇐ 虫について質問し、飼育箱に目を向けさせるようにした。 ⇒ これまでの生き物とのかかわりを思い出し、伝えることができた。 ⇒ 生き物への愛着が深まった。 ⇐ 生き物への思いに共感し、発言を褒めた。

時間	主な学習活動	教師の支援(○▽全体●▼個)	評価の視点(評価の方法)
② 生き物とともだちになろう(9)	<input type="checkbox"/> 世話を続ける ・すみかの掃除や餌やりを続ける。 ・気付いたことをミニカードにかく。(4)	▼世話を忘れがちな児童には、生き物について話し、世話をするように声を掛ける。	気・適した餌や持ち方、生き物に合った世話の仕方をして いる。(行動観察) ・生き物をかわいがり、生命の大切さや、生き物のいとおしさをカードにかいている。(カード)
	<input type="checkbox"/> 生き物の世話をしてきたことを振り返る。 ・カードを整理する。 ・世話をして楽しかったことや気付いたことを友達に伝える。(3)	○同じ生き物を飼っていた児童同士で相談してカードを整理するよう働きかける。 ▼カードを時系列や内容ごとに並べるよう例示する。 ▼友達に特に知らせたいことは何か尋ね、まとめのヒントにする。 ▼生き物を飼った楽しさを表現できている児童を褒める。	思・カードを整理して生き物の様子をまとめている。(行動観察・発言・カード)

生活科全体計画の一部(例)

〇〇〇小学校 生活科全体計画 平成15年度作成

★☆☆生活 教科目標☆☆★

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

学校周辺の学習環境(生活科マップから抜粋)

公園等 都立〇〇公園 〇〇第1~第3公園 北〇〇公園 〇〇中央公園
 〇〇〇〇川 〇〇〇〇川 〇〇〇〇川 〇〇〇〇川
 市立〇〇図書館 〇〇児童館 〇〇公民館 〇〇駅前交番 〇〇保険センター
 ●●電鉄 ▲▲電鉄 ●●バス ▲▲バス
 〇〇中央警察所 〇〇消防署 〇〇ボランティアセンター 学校給食センター
 ▲▲保育園 ●●幼稚園 ▲〇大学
 ▲▲商店会 〇〇駅前商店街 スーパー▲▲
 〇〇寿会 ▲▲議会 〇〇自治会 ▲▲自治会

〇〇〇小学校の特色ある教育活動

○自然や動植物に積極的にかかわらせ、自信をいっしょに生命を大切にすることを。
 ○地域の特色を生かした活動を実施し、広い視野で自分をしっかりと見つめる心身に生きる子どもを育成する。

生活 第1学年の目標

① 自分と学校、自分と家庭などのかかわりに関心をもち、その一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。
 ② 自分と身近な自然とのかかわりに関心をもち、生命尊重の精神を育むとともに工夫により自らの生活を楽しむことができるようにする。
 ③ 道徳体験の楽しさを味わい、それを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉・絵・動作・劇化などによって表現できるようにする。

生活 第2学年の目標

① 自分と身近な社会とのかかわりに関心をもち、その一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。
 ② 自分と身近な自然とのかかわりに関心をもち、生命尊重の精神をもって自然と関わり、工夫により自らの生活を楽しむことができるようにする。
 ③ 道徳体験の楽しさを味わい、それを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉・絵・動作・劇化などによって表現できるようにする。

第1学年の内容

学校と生活(内容①)
 家庭と生活(内容②)
 四季の変化と生活(内容③) 秋・冬・春
 自然や身近なものを愛した遊び(内容④)
 動植物の飼育・栽培(内容⑤)

わんぱくタイム(第1第2学年合同の学習活動)

第1学年:上級生との活動を通して、活動を広げる。
 第2学年:下級生との活動を通して、自己の成長を実感させる。
 1学期に両合わせを行い(1年学校と生活・2年自分の成長)、2学期に四季の変化と生活(秋)・3学期に自然や身近なものを愛した遊びの単元の活動の一部を、2学年合同で行う。

第2学年の内容

地域と生活(内容①)
 公共施設の利用(内容②)
 四季の変化と生活(内容③) 春・夏・秋
 自然や身近なものを愛した遊び(内容④)
 動植物の飼育・栽培(内容⑤)
 自分の成長(内容⑥)

2学年の単元配列及び内容

月	第1学年										第2学年															
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
単元配列	みんながよし(内容①)										作ってあそぼう1(内容②)			わたしの家族(内容③)				この町大好き(内容④)			作ってあそぼう2(内容⑤)			わたしの自慢(内容⑥)		
	7月いっぱいになあれ1(内容①)										調ってみよう1(内容②)			7月いっぱいになあれ2(内容③)				大きくそだて1(内容④)			調ってみよう2(内容⑤)			大きくそだて1(内容⑥)		
											秋			冬				春			夏			秋		
わんぱくタイム	いっしょに遊ぼう(内容①)										秋の宝物さがし(内容②)			春からの遊び(内容③)				いっしょに遊ぼう(内容④)			秋の宝物さがし(内容⑤)			春からの遊び(内容⑥)		

学級の児童の様子	A児の活動の様子	A児への評価 (⇒) 支援 (⇐)
<ul style="list-style-type: none"> 世話をする時間を楽しみにしていた。 花壇でバッタやコオロギを捕まえ、更に虫を増やす児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 虫を持つとき、そっと触るようになっていた。 	<p>⇒ 生き物の立場で接している。</p> <p>⇐ どうしてそういう持ち方をしているかを聞いて、自分が生き物に思いやりを持って接していることを自覚させた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 作文、絵、生き物への手紙、図鑑など思い思いの方法で表現していた。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに書いたミニカードを読み返していた。 友達と生き物の様子を話しながらていねいに世話をしていた。 自分と生き物とが並んでいる絵をかいた。 	<p>⇒ 世話をした楽しかったことや気付いたことを振り返っている。</p> <p>⇒ 生き物への愛着が更に深まっている。</p> <p>⇐ 生き物の様子を尋ね、気付いたことや、よく見ながら世話をしてきたことを褒めた。</p> <p>⇒ 生き物の体の様子を捉えている。生き物を大きく描いて自分の思いを表現している。</p>

生活科においては、児童の実態に即した柔軟な指導が行えるように、学年の目標や内容が2学年まとめて示されている。したがって各学校で、生活科全体計画を作成し、自校の特色を生かした生活科の学習を実践する必要がある。

学校の特徴

教育目標や特色ある教育活動、児童の実態、地域の環境など、各学校の特色を明らかにすることによって、その学校に適した生活科の指導を進めていくことが可能になる。

学年の目標・内容

2学年まとめて示された目標や内容を学校の特徴などに応じて各学年に配分する。生活科の内容(1)～(8)を2学年にどう位置付けるかで、内容の重点化を図ることができる。

2学年の単元配列

基本的に1単元1内容で構成するようにすれば、学習のねらいをより明確にすることができる。児童に確かな力を身に付けさせていくためには、各内容の配列を工夫し、2年間を通して、ゆとりある学習を展開できるようにすることも大切である。

評価の積み重ねによって、学習指導が改善されても、学年担任が交代するたび、生活科の単元やそのねらいが異なっていたのでは効果的な学習指導を展開することは難しい。生活科の(1)～(8)の内容を踏まえた学習を展開するとき、ねらいや評価規準を明確にする必要がある。そこで、各学校に適した生活科全体計画を作成することが大切となる。

生活科全体計画を作成し、活用することによって、評価規準や評価の方法、指導の手立てなどを蓄積することができ、それらを単元の「指導と評価の計画」に更に生かすことができる。

なお、全体計画には、「評価の観点や趣旨」「他教科との関連」等も盛り込み、地域の環境や児童の実態等に応じ、創意工夫を生かした教育活動が展開できるようにすることが大切である。

指導事例2 《1単位時間の指導事例（第1学年）》

ここでは、1単位時間における展開例を、教師の支援を中心に示した。誌面の都合から、単元及び小単元の評価規準、指導と評価の計画などは省略した。

★単元の概要★

単元名 「みんなだいすき」（全12時間） 内容（2）「家庭と生活」

単元の目標

家庭での生活に関心をもち、自分の役割を果たそうとするとともに、規則正しく生活しようとする。また家庭生活は家族によって支えられていることに気付くとともに、家族一人一人のよさや家庭で役立つ喜びに気付く。

小単元の目標 第1小単元 わたしのしごと（7時間）

家庭生活を支え合っている家族について考え、自分のできることに気付き、家族のために役立つことをしようとする。

第2小単元 かぞくとわたし（5時間）


家族の一員として自分の役割を見付け、自信をもって生活したり、家族のよさや温かさに気付いたりする。

※ 指導に当たっては、児童一人一人の家庭の環境が異なるので、その実態に配慮しながら、保護者に対して学習内容や活動の様子を知らせ、理解と協力を呼びかけた。

1 本時のねらい（9/12）

自分が1週間チャレンジしてみた仕事について、仕方や感じたことを友達や保護者に分かりやすく伝え、今後も継続しようとする気持ちをもつ。

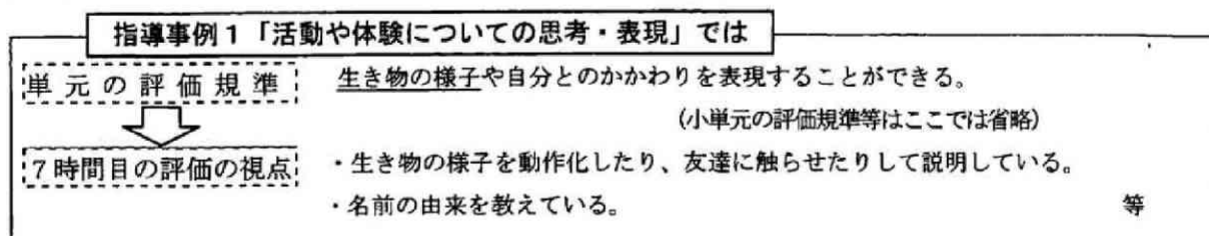
2 展開 教師の支援（○●学習の流れに関する支援 ・ ▽▽評価に基づく支援）

予想される児童の活動	教師の支援（○▽全体 ●▽個）	評価
	<p>●発表会に参加してくれる保護者に、本時の授業の展開の仕方やそれぞれの児童がどんな仕事について発表するのか個別に連絡する。</p> <p>○学習意欲を高めるために、あらかじめ、誰の発表を開きたいのかを決めて計画する。</p>	
<p>① 「仕事にチャレンジ」発表会をしよう 5分</p>		
<p>□今日のめあてを確認する。</p> <p>・発表の仕方や聞き方の確認をする。</p> <p>・発表の準備の確認をする。</p> <p>□発表するグループと聞くグループを交替で行う。</p>	<p>○今日のめあてをカードに書いて提示し活動の目的をはっきりさせる。</p> <p>○だれがどのように仕事をしていたのか、仕事のこつが分かった、友達のよさに気付いたなど視点を決め発表会を開くようする。</p> <p>●前もって、発表に必要なものを準備し、安心して発表できるようにする。</p> <p>▽前時の評価から、発表に不安をもっている児童には、意欲が高まるように発表前に励ましの言葉をかける。</p> <p>●自ら行動することに不安をもつ児童のために、あらかじめ活動の場所や時間、安全面の約束を掲示する。</p> <p>○友達や保護者との温かいかわりを重視したいので、友達や保護者のアドバイスや感想を参考にするように促す。参加する保護者を紹介する。</p>	 <p>発表する児童と見守る保護者</p>

V 研究のまとめ

1 「指導と評価の計画」の工夫・改善と活用

単元の評価規準から各単位時間の評価に至るまで一貫性をもたせることにより、各単位時間において、単元で身に付ける基礎・基本を意識しながら指導と評価を行うことができる。



2 個に応じた指導における教師の役割の明確化

(1) 児童の学習状況を的確に把握する

「指導と評価の計画」に各単位時間における評価の場面と方法を明確に位置付けることにより、児童の学習状況を把握しやすくすることができる。行動観察や発言の分析などの方法に加え、教師から働きかけたり問いかけたりするなど、複数の評価方法を組み合わせることで、児童の学習状況をより的確に把握できることが分かった。また、休み時間の会話の内容、保護者からの情報など、授業以外の場面での学習にかかわる内容も、児童の学習状況を把握し、個に応じた指導をする上で有効な情報である。

指導事例1では

A児のカードには、「今日コオロギがリンゴばかり食べているから、リンゴが好きなかもしれない。」というような気付きが多数書かれていたが、実際に世話をする様子を観察したり問いかけたりすると、直接触るのを怖がっていることが分かった。カードと行動観察による評価を組み合わせることにより、関心はあるが、生き物とのかかわりをもつことができているというA児の実際の学習状況を把握することができた。

指導事例2では

学習前に、家庭での手伝いの状況を調査し実態を把握した上で、児童への支援の計画を立てた。家庭での取り組みについては連絡帳を活用しながら把握した。また、グループ活動などすべての児童の活動を把握できない場面では、授業に参画していただいた保護者に、見だした児童のよさを付箋紙に書いて渡すよう依頼した。これらの情報は、一人一人に応じた指導を考える上で有効であった。

(2) 児童の活動を予測しながら適切な指導をする

生活科においては、同時に多様な学習活動が展開されることも多く、児童の学習状況を一律に評価していくことは難しい。そのため、活動からどのような気付きが生まれるのか、どのような興味・関心が表出されるのかなどをあらかじめ予想し、評価の視点として設定するとともに、それに応じた指導の手立てを用意しておくことが重要である。

特に、「身近な環境や自分への気付き」は十分に自覚されていないことが多いことから、教師が児童の活動や反応を予測し、気付きを価値付けるなど適切に指導することにより、無自覚な気付きを自覚させることができることが明らかになった。

指導事例1では

A児は自分の飼っている虫について多くの気付きがあり、カードにも表現しているが、自分と虫とのかかわりを深めていることには気付いていないため、友達に紹介する場面では簡単なメモの発表に終わることが予想された。そこで、教師が聞き役になり、A児から積極的に話を聞き出したり、気付いたことを褒めたりして、気付きを自覚させるように支援した。すると、A児はそれまでの気付きや実感したことを自分の言葉で表現するようになった。